

1 学期終業式あいさつ

みなさん、こんにちは。校長の稲葉です。

本当に大変な1学期でした。

3月からの臨時休業の継続に始まり、遠隔授業、分散登校、分散授業、そして6月15日からようやく通常授業がスタートしました。しかし、学校が再開されてもマスクの着用、三密を避けるなど、皆さんにはとっては多くのストレスを感じた毎日だったと思います。私たち教職員も前例のない事態に直面してずいぶん疲弊した毎日でした。その1学期が今日で終わります。本当に長い、大変な1学期でした。皆さん、よく頑張りました。

今日の終業式も全校生徒が一同に集まることができず残念ですが、私から放送で皆さんに3つのことを伝えたいと思います。

1つ目は今回のコロナ禍をどう捉えるかについてです。この間、皆さんは、自分の生活が政治、経済など社会と密接に繋がっていることをこれまで以上に強く感じたことと思います。これは、今回のコロナ禍における数少ないプラス面だと私は思っています。皆さん一人一人が社会の主人公として、いま社会で起きていることに敏感であること、そして、社会で起きていることを客観的に分析し、自分はなぜそう考えるのかを自分の言葉で説明できる、そんな社会を見る眼や思考力・判断力を培う機会にしてほしいと思います。

次に2つ目は今回のコロナ禍を皆さんの今後にどう活かすかです。例えば、皆さん、今から10年後の自分を思い浮かべてみてください。想像することができますか？

今から10年後に、自分の高校時代を振り返った時、きっと皆さんは高校時代の思い出の一つとして新型コロナウイルスについて語ると思います。「自分の高校時代は新型コロナウイルスの影響で高校が休みになって、部活もできなくなって、大会や行事が中止になって大変やったんや・・・」と、そんなネガティブな思い出を語ると思います。しかし、高校時代の思い出がここで終わっては寂しいですよ。「その大変な中で、自分はこんな努力をした、こんなに成長した、だから10年後の今の自分がある」と高校時代のコロナ禍の思い出を前向きに語れるように、これから皆さん一人一人が新たな自分のストーリーを創ってください。賢明な皆さんならできるはずです。目先のことではなく、10年後に自分はどうありたいかを意識して、授業に、部活に、行事に、課題研究に、3年生は受験勉強に、全力で向き合ってください。そして、その過程で自分を磨いて新たなストーリーを創ってください。

最後に3つ目は意思決定についてです。私は、6月15日の全校集会の放送で、皆さんに「判断と決断は違う。勇気をもって決断のできるリーダーになってほしい」と言いました。

いま、各クラスでは、暁高祭に向けて様々な意思決定が行われていると聞いています。私は、今回のようなコロナ禍の制約がある中での意思決定は、皆さんにとってとてもいい勉強になると思っています。クラスでの意思決定は、政治学でいう直接民主制と同じで、クラス全員が自分の意思を直接表明することができます。その中では、様々な意見の食い違いがあると思います。多数決の原理は民主的であると思われていますが、万能ではありません。多数者の横暴になることなく、少数意見もしっかり反映するようなコンセンサスを作りあげてください。今回のような状況下での意思決定を通じて皆さんが成長するのも暁高祭の重要

な意義であると思います。そして、クラス全員で協力して、今後の暁高の歴史に残るであろうコロナ禍での暁高祭を成功させてください。期待しています。

現在、新型コロナウイルスの感染が再び拡大しています。7月から府立高校では13の学校が生徒や教職員の感染により臨時休業を余儀なくされました。本校も例外ではありません。これからも一人一人が自分自身と大切な人の命を守るという強い意識をもって、感染予防に努めてください。

では、史上最短の夏休みですが、リフレッシュして、8月17日にまた元気に登校して来てください。私のあいさつは以上です。